市区町村名	愛媛県松山市	担当部署	まちづくり推進課
		電話番号	089-948-6996
		所属メール	sakanoue@city.matsuyama.ehime.jp

1　取組事例名

地元大学の専門性を生かした地域の価値の再評価
～若者のまちづくりへの参画を促すために～

2　取組期間

令和4年度～（継続中）
【令和6年度事業実施完了予定】

3　取組概要

松山市の久谷地区は豊かな里山の自然に囲まれ、四国霊場の札所や遍路にまつわる多くの地域資源が残る一方、市郊外に位置し、人口減少や高齢化、地域コミュニティの希薄化などが課題となっている。

そこで、松山市では、行政と地域まちづくり団体、地元大学が連携し久谷地区の地域活性化のための取り組みを行っている。

4　背景・目的

【背景】

松山市は、その豊富な地域資源を活用し、市内全体を屋根のない博物館に見立て、回遊性のある物語のあるまちを目指す「フィールドミュージアム構想」を進めている。市の南部に位置する久谷地域（人口 9,534 人）は、その面積の多くを豊かな里山の自然に囲まれ、四国霊場の札所や遍路にまつわる多くの資源が残る遍路の里として、フィールドミュージアムのサブセンターゾーンの一つとなっている。

【目的】

久谷地区が持つ地域特性や資源について、その歴史や価値を研究・再評価し、有効に活用することで、地域活性化につなげるとともに、地元のまちづくりへの若い世代の参画を促し、地域の持続的な発展と若者のシビックプライドの醸成を目指す。

フィールドミュージアム構想のイメージ図

松山市フィールドミュージアム構想について

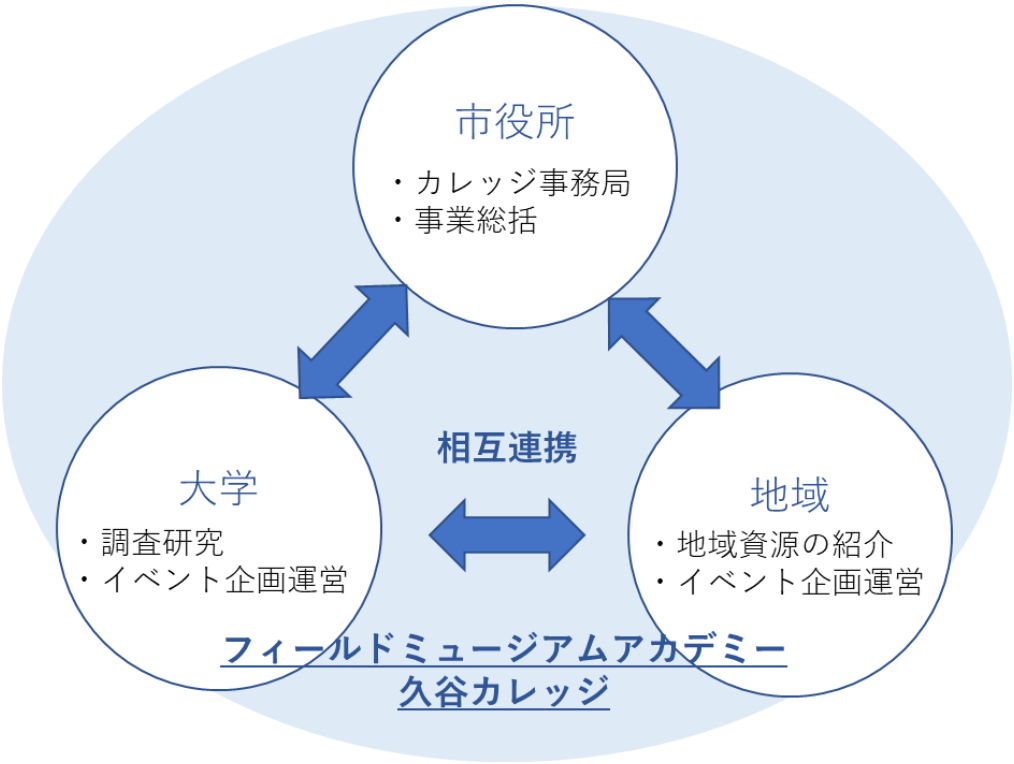
松山市内には小説『坂の上の雲』ゆかりの史跡や地域固有の貴重な資源が数多くあります。これらの地域資源をひとつの作品にたとえ、市内全体を「屋根のない博物館」と捉え、回遊性の高い物語のあるまちを目指すのが、フィールドミュージアム構想です。

具体的には、松山城周辺をセンターゾーン、そのまわりに6つのサブセンターゾーンを配し、それぞれのゾーンの魅力を地域住民が主体となって磨き上げる“松山らしさ”を活かしたまちづくりを進めています。

5 取組の具体的内容

・久谷地区全体を「フィールドミュージアムアカデミー久谷カレッジ」と位置付け、行政と地域まちづくり団体、地元大学（愛媛大学社会共創学部）が連携し、取り組みを実施。これまで運営には、地元まちづくり団体2者、地元の大学生延べ 20 人以上が参画し、多様なアイデア・意見をもとに、イベントや調査研究を行う。

【フィールドミュージアムアカデミー久谷カレッジの運営イメージ】



愛媛大学社会共創学部との連携について

・愛媛大学社会共創学部では、地域資源の活用・継承と持続的な地域社会の実現のために、キャンパス内で専門的な知識や理論を学ぶだけでなく、実際に地域に出向いてフィールドワークなどの活動を行い、地域が抱える課題の解決や、地域資源を生かすための実践活動に取り組んでいる。

このような地域課題の分析や調査を強みにする大学生の視点をまちづくりに活かすために、社会共創学部と連携した取り組みを実施。

【これまでの取組み】

開校式（令和４年度）

三坂峠を出発し、地元まちづくり団体のガイドによる説明を受けながら、旧遍路宿「坂本屋」まで歩き、地元有志が行うお遍路さんへのお接待を受けるなど地域の良さを肌で感じられる開校式を実施。

取組①くたに学

地域の人たちからの聞き取りや資料調査によって、大学生たちが学んだ知識を、
学生の視点で、一般の方や子ども達に講義を行うことで知識・学びを好循環。

【久谷中学校地域巡り】

久谷中学校で行われた地域巡りで大学生が”神社の見方”を説明し、
普段見ている文化財の新しい知識や価値を中学生や地域住民に共有。

取組②フィールドミュージアムアカデミー交流イベント

地域まちづくり団体と大学生が協働で、里山の自然や食材、地域資源を活用した地域の賑わいが、創出できる交流イベントを企画・運営。

【ホタル祭り】

地元のイベント「くぼの町ホタル祭り」に大学生が参加。会場である「正八幡神社」に関するクイズを出し、来場者に”神社の面白い見方”を紹介。

（上記写真は、大学生が作成した神社に関するクイズの答え合わせをする様子）

また、祭りのブース出店にも大学生が協力し、地域住民と交流しながらイベントに賑わいをもたらした。

【松山ふるさとウォーク in 久谷】

久谷地区で開催された「松山ふるさとウォーク in 久谷」でブース出展し、久谷カレッジの活動の PR や、地域資源に関するアンケート調査を実施。

※松山ふるさとウォークとは・・・
小説『坂の上の雲』ゆかりの地をはじめとした地域資源に関するクイズを解きながら、ふるさと松山の素晴らしさを実感していただくウォークイベント。毎年開催エリアを変えながら実施。

（上記の写真は、地域資源に対する考え方ついて、シールを用いたアンケート調査を行う様子）

取組③くたにラボ

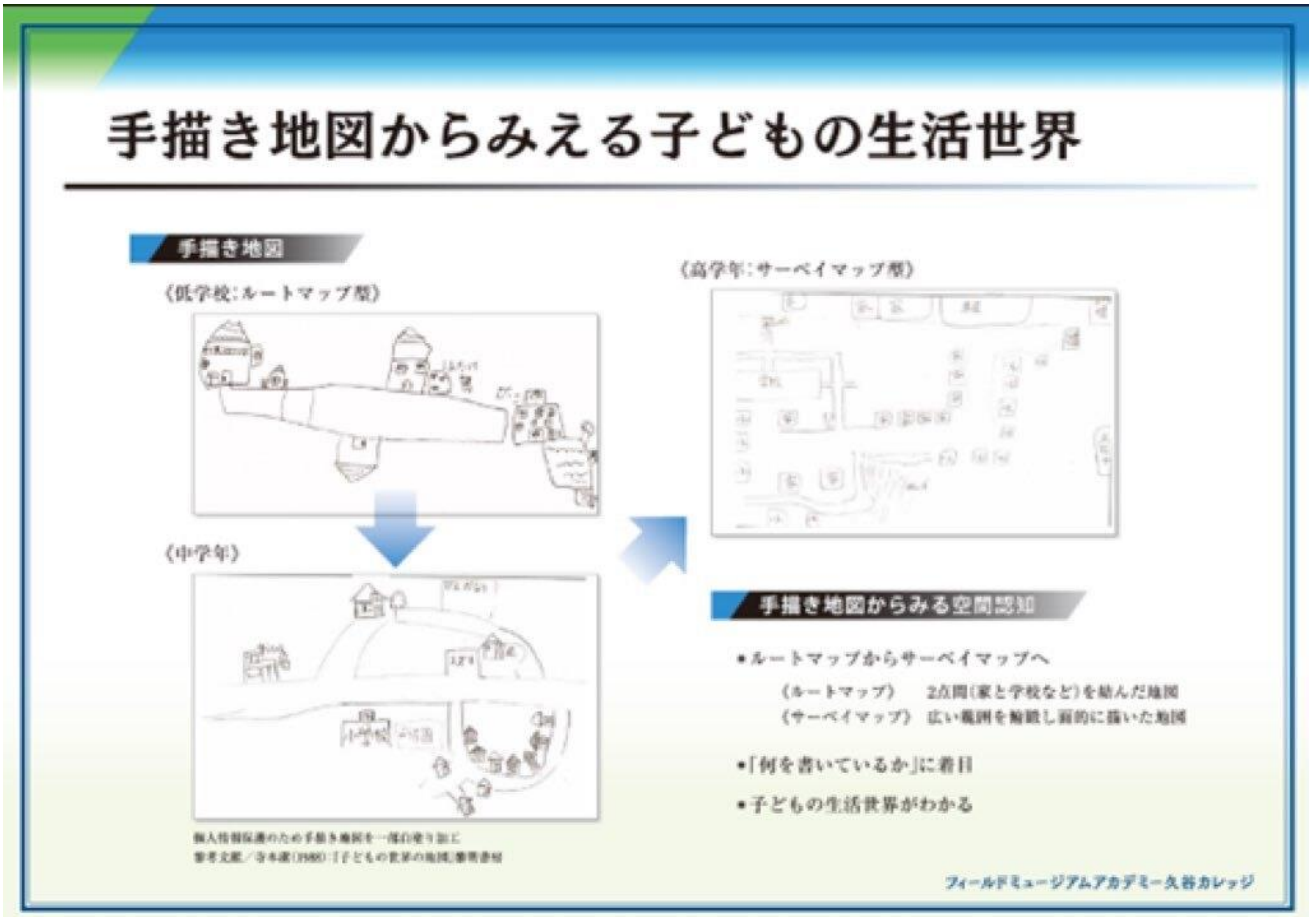
地域へのアクセス向上、滞留時間延長のための整備等について、大学生と住民が適切な内容や効果的な手法について研究し、実現に向けたアイデアを提案。

（上記写真は、大学生が地元小学校で、
小学生に学校までの通学路を白紙に描いてもらう様子）

【メンタルマップ調査】

久谷地区の小・中学生の地域学習の実施状況・地域に対する認識について検証するために、「メンタルマップ」という手法を用いてアンケート調査を実施。

※メンタルマップとは、実際の地図などを使用せずに、頭の中で描く地図のこと



上の図はアンケート調査結果を分析し、まとめたもの。

【ホームページ「久谷の里山」をリニューアル】

リニューアル前

地元の郷土史家が個人で運営していた久谷地区の地域資源を紹介するホームページ

リニューアル後

大学生の目線でレイアウトの見直しや記事の整理を行いリニューアルし、久谷の魅力を新たに発信。
また、ホームページの更新方法を分かりやすくまとめたマニュアルを作成し、
地元のまちづくり団体へ引き継いだ。

6　特徴（独自性・新規性・工夫した点）

・高齢化が進み、地域に若者が少ないという課題を抱えた地域で、あえて若者を中心に事業を進めた点。
・久谷地区という多くの歴史文化や自然の資源と、高齢化や過疎化などの課題が共存している場所で、愛媛大学「社会共創学部」という独自性を生かし、文化資源に関する専門的な知識のある大学生を中心に据え、地域住民と交流しながら客観的な調査・研究を行う新しい協働の形ができた。
・コミュニケーションを密に取ることで大学生ならではの発想を引き出し、そのアイデアを実際に形にするために行政として関係者との調整を行った。

7　取組の効果・費用

【効果】
・大学生が調査、研究した内容を久谷中学校で行われた地域巡りや、活動報告会を通して地域住民に伝えることで、新たな気づきを与えることができた。
また、活動報告会では、地域住民や学校関係者を交えてシンポジウム形式でまちづくりについて協議し、大学生が分析し、提案したまちづくりの方向性を地元の方と共有することができた。

・地元の郷土史家が個人で運営していた久谷地域の地域資源を紹介する HP を、大学生の目線でレイアウトの見直しや記事の整理を行い、リニューアルしたことで、久谷の魅力を新たに発信することができた。
また、ホームページの更新方法を分かりやすくまとめたマニュアルを作成し、HP の運営を地元のまちづくり団体へ引き継ぐことができた。

【費用】
松山市、地元大学、地元のまちづくり団体 2 団体の 4 者による運営委員会形式で活動。
運営委員会への負担金として初年度は200万円、令和 5 年度、令和 6 年度はそれぞれ 100 万円を松山市が支出。

8　取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

地域として大学生に取り組んでもらいたいことと、大学側として地域に関わることができることのミスマッチが起きることがある。
→行政が両者の間に入り、意向を汲み取りながら調整を行うことで事業を実施した。

9　今後の予定・構想

この事業は令和4年度から3ヵ年事業として開始した事業であるため、今年度末で事業完了を迎える。
来年度以降、地元の大学生が地域のまちづくりに参加したいと思ったときに、地元のまちづくり団体とマッチングできるような仕組みづくりを検討する予定。
また、学生からの提案は、現在策定中の地域のにぎわいづくりのための構想へ反映する。

10　他団体へのアドバイス

活動報告会に参加した地域住民の方から「自分の知らない久谷地区の良さに気づくことができた」とあるように、若い世代の視点や、第三者の視点で地域を再評価することは、地域住民の愛着を高めることにも繋がります。
若い力と協働し、地域活性化に取り組みましょう。

11　取組について記載したホームページ

松山市公式ホームページ
https://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/machizukuri/sakanoue/kutani.html